



阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、市民の皆様の人権に対する思いを掲載していきます。

## 過去、いま、未来へつなげる

「日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん」を振り返って

日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん

第一分科会長 齋 芳宏さん

アフター事業 わくわく男女共同参画2014阿南フォーラムを開催

日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん（以下「日本女性会議2013あなん」という）から1年を経過した11月9日(日)、アフター事業として「わくわく男女共同参画2014阿南フォーラム」が阿南市文化会館で開催されました。テーマは「創ろう！私のオリジナルライフ」。一般社団法人終活カウンセラー協会代表理事の武藤頼胡さんが講演後、日本女性会議2013あなんでお世話になった、市場恵子

さん、大山治彦さんと実行委員長の渡辺純子さん、分科会から私がパネラーとして参加し、オリジナルライフについて話し合い、日本女性会議2013あなんの継承事業についても報告しました。

第一分科会「介護・地域医療」で話し合った内容

日本女性会議2013あなん第一分科会「介護・地域医療」は、昨年10月11日に見能林公民館で全国から150人の参加者をお迎えし開催しました。臨床社会学者の春日キスヨさんから「人生90年時代『夕映え期』の終活」をテーマに講演をいただき、パネルデイスカッション、ワークショップを行いました。内容は、急速に高齢化する地域と変わり続ける家族の姿でした。90歳を超える高齢者が増加していますが、自分の最晩年期を考えている人は少なく、おそらく家族に頼ることが

できるであろうと考える方が多いようです。しかし、子ども世代の人口の減少や生涯未婚率の上昇、介護をしないのが「普通」になっている現状では、家族はあまり頼りになりません。さらに、団塊の世代が介護を望むのは、男女ともに配偶者が一番多く、子どもと続きます。長男のパートナーに介護を希望する人は、1%に達していません。すでに高齢者介護は、「長男のパートナー」ではなく、夫婦間もしくは子ども世代の問題となつていきます。

子どもたちの多くが結婚していた時代は、親離れ子離れができていましたが、少子化世代は、自立できないまま親の介護をせざるを得ない状態になつていきます。そういった、世代が地域で孤立し、高齢者虐待などの温床にもなつていきます。このような現状の中で、最晩年期を幸せに生きるためには、自立した親子関係の組み替え、家族以外の方を頼る地域を持つことが大切であると話し合いました。

### 「笑みの会あなん」の取組

第一分科会では、一過性に終わらせたくないという思いから、スタッフが中心となり「笑みの会あなん」を立ち上げ、2つの活動を行っています。1つ目は、男性を対象とした「いきいき男女共同参画介護職員初

任者研修」です。男性を対象とした講座は新しい試みで、13人が受講しています。介護知識や技術の習得は、介護ストレスの軽減につながります。さらに、修了後、地域のリーダーとして活動を広げることをお願いしています。

2つ目は、毎月第4金曜日に地域で活躍されている団体を講師に迎え、学習会をしています。学んだことから、新たな取組を考え活動を行うこととし、できるだけ多くの市民参加を願っています。

日本女性会議2013あなんは、政令都市や県庁所在地以外の自治体で初めて開催されました。小さな市町村でも開催できたという点においても、大きな意義があったと思います。

さらに、延べ8千人を超えるボランティアのご協力で運営され、大会を機に集まった市民が結びついたことにより、他の分科会も実践を始めています。これからも、「小さなまちの大きなチャレンジ」で得た力を新たなステップとして市民が誇りを持ち、生活ができる地域づくりを進めていきたいと思っています。

### 問い合わせは

人権・男女参画課  
(☎22-3094) へ

